

幼見之教育



第十號

十一月號

第四十四卷

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

保 育 奉 公

大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

第 四 十 四 卷 幼 兒 教 育 第 十 號

——(次 目)——

日光保育……………	倉橋惣三(一)
日光と幼児……………	齋藤文雄(二)
日光の人體、殊に幼児の身體に對する生理衛生學的價值……………	萩原兼文(六)
日なた保育を語る……………	留岡よし子(九)
東北の日なた……………	今 きよ(三)
日なたの畑……………	及川ふみ(三)
陣友音信(三)……………	倉橋惣三(二五)

日光保育

倉 橋 惣 三

燃料が缺乏しても、日光のあた、かきがある。食糧が充分でなくとも、日光の榮養作用がある。戦時幼児生活に、こんな貴重なものはない。これほど活用しなければならぬものはない。勤勉な農夫が日光を尊重することは昔からであるが、今日の増産において、それが如何に強いことであらう。「い、お天氣さま」は彼等の感謝に充ちた讃歌である。まめやかな主婦が日光を惜しむのは誰れでもあるが、今日の多忙において、それがさぞかし一層のことであらう。「結構なおひより」は彼女等の喜びに充ちた讃語である。彼等も彼女等も日光の活用に今日ほど眞剣なことはないといつていいであらう。そのために自らまつ黒に日にやけてゐる。

今日、日光活用に最も眞剣な一人が、戦下の幼児生活を護り、強く逞しく保育することを任としてゐる保姆諸君でなければならぬことは論を俟たない。しかも、そのために必要な勞力は極めて少ない。たゞ窓を開けばいいのである。戸外に出ればいいのである。一舉手一投足の勞とはこのことである。たゞ、愛する幼児に少しでも多く日光を與へたいといふ心の有り無しだけが問題になる。日光の絶大な保健的效果と共に、われらの日光禮讃の一つは、その偉大な精神的効果にある。その光は幼児の心を明るくし、その温かさは幼児の心を温にする。暗さと、冷さ程、幼児の精神に嚴禁なものはない。それを除き防ぎ、不斷の明と温さを、その性格に與ふることに、幼児教育はたえず留意する。しかも、最も

容易にそれを解決し實現して呉れるものは日光である。子ども達を日光の前に、裡に、連れてさへゆけばよいのである。但し、いつの場合でも同じように、子どもをよきものに連れてゆくことは、たゞ手をひき、足を導くだけのことではない。心が心を誘ひ、導いて、連れてゆかなければならぬ。その點において、保姆の人が先づ、日光を好み、日光を愛するのでなくてはならない。而して、日光を愛好する人は、自ら先づ、明るく温い性格の人でなければならぬ。

眞に日光を愛好することなく、日なたに對して不精な先生に保育せられる幼児ほど不幸のものはない。その先生は、幼児達の日なたへの願ひをさへ拒むのである。折角くの秋晴を、窓の外に閉ぢ、戸外に遠ざけて、その日光の愛情と恩恵と、あの深い教育力をな幼児達に受けさせようとしないのである。

生長は皆日光の下にある。生長するものは皆、日光を求める。幼児は生長するものである。保育は幼児を生長させることである。保育者の理想は日光である。その典型も模範も日光に似ることである。幼児達と共に日光に出る前に、先づ自ら日光に浴して、その光りと温さと、幾多貴重なる放射線とを、豊にふつくと身に受けようではないか。そうして、そのふく／＼とした性格を以て、幼児を日光の子たらしめる、日光の先生とならうではないか。

日光と幼児

齋 藤 文 雄

日光の恩恵

凡そ動物といはず植物といはず、いやしくも生物と名のつくもので日光の恵みをうけずに健全な發育を期待し得るものは一つもない。しかも植物でも動物でもその一生を通じて、發育期に相當する期間はわけても日光の恵みに頼らなければどうにもならない。人間でも乳幼児期、即ち人生の中で最も旺盛な發育を示す時期は量的にも質的にも最も日光の有難さが判る時期である。幼児を丈夫に立派に育てやう、單に肉體的に丈夫に育てるといふ目的ばかりでなく、精神的に立派な皇國民としての人格を涵養する目的からいつても日光は不可欠である。幼児を心身共に立派に育てるためには人手も要る。施設も要る。物資も要る。或種の藥劑も要るであらう。併しながら、今日只今の戦時下の情勢はどうであらうか。果して吾々を満足させ得る準備が可能であらうか。答は簡単な筈である。この頃、何を買つてみても、所謂間に合せものばかりで、値段は高いかも知れないが、使用してみると粗惡である。こんな世の中にあつても、昔と同じ「スフ」の入らないものは人爲の生産物でないもの、自然即ち日光や大地の恵みによつて生産される物資ばかりである。野菜を見よ。果物を見よ。何と生々とした美しさを示してゐることか。

幼児の保健といふことを考へると色々の問題がある。榮養、藥、病氣の豫防、日常生活の規正など何れも重要である。しかし榮養、醫藥、病氣の豫防など完全に行はうとすると、戦時下物資難の今日中々容易なことではない。その點野菜や果物ではないが、子供の生活にも出来るだけ自然の恵みを取り入れることは、戦時下の育児保健として眞面目に考へてみなければならぬ問題となる。自然の恵み、大地、大氣、太陽、この三つの大の字のつくものは戦時下でも無限であり、あく迄純粹である。この三つを幼児の生活の中に取り入れて、他の對策の不足を之で補ふことはどうであらう。何でも無い。今日只今からでもできることである。隣組長さんに届けておく必要もない。大といふ景氣のいゝ字がついてゐるだけでも明るくて朗らかだ。しかも今日の醫學は之等が幼児の保健に如何に役立つこと大いものであるかを立派に證明してゐるのである。

これらの三つの大の中でも最も大きな大の字をつけなければならぬのは太陽である。只今述べやうと思ふことも實はこの太陽の光りの恵みについてである。

日光の成り立ち

先づ暫らく太陽の光線即ち日光といふ

ものについて一應復習して見やう。日光を分析すると化學線(紫外線)、光線、熱線(赤外線)の三つになる。それぞれの波長の違ひであるが、光線そのものも波長の幅に従つて虹の示すやうな色々な美しい色となつて現はれてゐる。名前はともかく、吾々には日光そのものゝ、全體が必要なのである。

一體日光といふものは太陽から地球に届いて來ると先づ次の三つの働きが見られる。

(一)大氣自身のイオンの變化を起す。空氣は陰陽兩イオンによつて區分せられるが、陰イオンは鎮靜的に作用し食慾を増し、發育にも好影響がある。陽イオンは不眠頭痛等刺激的に作用するが、光線の働きで陰陽何れかのイオンの多い日と少ない日ができる。

(二)空氣自身を消毒する。

(三)地上の細菌を殺す。もし地球上が夜ばかり續くやうなことが起つたら細菌の繁殖は忽ち地球上に人類の存在を許さなくなるであらう。

冬になると子供達は誰にいはれなくても日當に集まる。夏になると日蔭などで遊ぶ。日光の中の熱線が子供をそうさせるのである。日光は先づ子供の皮膚に對して働きかける。皮膚は光を吸収して熱のエネルギーに變化させる。吸収する日光は波長〇・三から〇・四ミクロンのものが多いから、先づ紫外線が吸収されるといつてよい。日光が皮膚に吸収されるととで色素沈着が起る。皆な色が黒くなる。色が黒くなるのは結局皮膚の防禦作用に他ならぬ。

日光と體溫、脈搏との關係 日光に當ると體溫が上昇する。

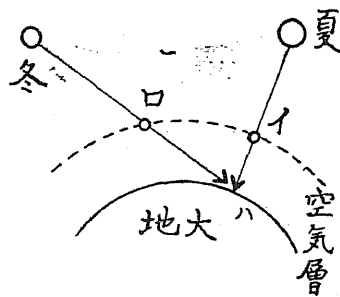
熱を發散する皮膚で熱が作られるからで、長い間日光浴をやるると一・五度くらゐ迄體溫が上昇するといはれるから日に當つて暖い理由も肯ける。暖くなるにも順序があり、初めの十五分ぐらゐは身體の表面だけが暖まるが、それ以上になつて體内の溫度も高まつてくる。ふだん弱い幼児や、長い間日光に曝されたことのない幼児は體溫を測り乍ら段々慣らしてゆく。

日光に浴すると脈搏はどう變化してゆくか。勿論體溫上昇と共に脈の数は増加するが、増し方はさう著しくはない。呼吸數には殆んど影響する所がないが、學者によつては一分間に四回ぐらゐ増加するといふ人もある。體内の燃焼が亢まる譯であるから、體重は寧ろ減少の傾向がある譯である。しかしこれは長い間の問題で一寸日光浴をしたから體重が減るなどいふものではない。内地から南方へ行くとき體重の減る人が多いやうであるが、年中強い日光に當てられてゐると影響が出てくるのである。

とにかく幼児の皮膚に關係するのは日光の熱と紫外線である。日當つてゐると、うつとりといふ氣持になるがこれは單に暖いからといふばかりではない。少し六か敷いが副交感神經の緊張を伴ふからで、血管も膨脹する。血壓も下る。氣分も爽快にゆつたりとしてくるからである。

紫外線について 紫外線は一年の中で季節的にいつて違ひがある。土地の高低によつても違ふ。たとへば夏は太陽が眞上に來るので日光は吾々に向つて、つまり大地に對して直角に近い角度で來る。冬は斜めに射すので大地との角度が小さい。さうする

と日光が空氣層を通つて大地へ届く迄の距離は圖のやうにイハよりロハの方が長くなるから空氣中の水滴や細かい塵埃で紫外線が途中で吸収されてしまふ割合が大きくなる。これは夏と冬とでなくとも一日の中でも正午と夕方の日光を見れば判る。夕方の日光は正午頃の日光より赤い。長い空氣層を通つてくる間に紫外線



がとられてしまつて赤外線に近い光線だけが吾々の眼に届くからである。秋の日も、相當斜めに南の方へ傾いてゐるが、日に焼けることは夏とあまり變らない。これは空氣が清淨であること、濕氣が少ないためである。

今こそ日光浴の機會である。冬は日光の照る時間も短いし、光りも弱い。今の中に

うんとやつておきたいものである。
日光の作用 更に有難いことに日光は地上の微菌を殺してくれるばかりでなく、子供の着物、手、顔などの微菌も殺してくれる。湿つた着物を乾かしてくれる。こんな親切な駄つてやつてゐてくれる日光の有難さ、一寸の光線も無駄にできない譯である。

高原や海岸などでは一日行つただけでも随分日に焼ける。高原は空氣が清淨で乾燥してゐるからである。海岸は濕氣が多いが、砂地などでは紫外線が吸収されずに反射してくる。日光から直接

くる紫外線と、地上から反射してくる紫外線と兩方から攻め込まれるから、日に焼け方も激しい譯である。夏の紫外線が多いことは植物を見ても判る。ビタミンDが多くなる。植物はかりでなく、夏の卵や牛乳などもビタミンDが冬より数倍も多いことでも判る。それ故、紫外線が多ければビタミンDが多くなるのは子供でも同じことである。紫外線が皮膚に作用して皮膚の含むエルゴステリンといふものをビタミンDに變化させる。ビタミンDは子供の發育ことに骨を逞しく伸してゆく上にはなくてはならぬ大切なものであるから、日光の有難さは文字通り骨の髓まで込みこむ譯である。

日光の利用及び諸注意

戦時下榮養源からビタミンDを

攝取することは仲々骨が折れる。ビタミンDを身體の中で作るやうに日光に親しむことも忘れてはならない。今年の冬などは定めし燃料不足で悩むことであらう。愈々日光の有難さが身に沁みる譯である。子供はできるだけ日當りのいゝ所を次々と選んで一分間の日光でも無駄にしないやうにしたいものである。硝子戸越しの日光など紫外線を透さないから意味のないことである。たとへバイタグラスでも三年もたてばもう紫外線を透さないから注意を要する。

扱て日光の有難さは判つたが次には、どう利用するかといふことが問題である。夏の日なら慎重にやらないと障礙を起すが、秋から冬は日光浴の時間など問題でない。出来るだけ日當で遊ばせ

る。同時に運動して暑くなつてくるやうなら着物を段々脱いで手も足も日に當てる。遠足でもする時ならともかく、普通は帽子なども取つて鉢巻ぐらゐにしてほしい。なければなほよい。たゞ問題は病氣の子、ことに肺門淋巴腺炎など結核性の胸の病氣をもつてゐる子は日光浴は危険であるから、こんな子は醫師の指示が必要。濕疹などは日に當てる方がよい。恢復も早いし、痒ゆみも樂になる。同じ結核でも外科的結核といはれてゐる手足の骨などの病氣は日に當てた方がよい。日光がどんなに有難くても受け入れる皮膚が垢で一杯だつたら紫外線は入らない。皮膚の清潔の必要なのである。

要之、子供は元來明るい所が好きだ。明るい遊びが好きだ。本來が明るいものであるからである。明るいといつて日光ぐらゐ明るいものはない。それをわざわざ暗くしてしまふやうな親はない筈、つとめて日光の恵みを充分に與へて身も心も強く逞しい子にしてほしい。

(筆者は醫博、愛育會愛育醫院小兒科長)

莊司雅子氏著

「フレーベルの教育學」

莊子雅子さんはフレーベルの永い研究者である。廣島文理科大學教育學研究室助手として、同教室長田教授の指導の下に、専心この研究を續けられた篤學の女性である。その研究の成果が此の立派な著述となつた。學的に精細である共に、フレーベルを味到されてゐる點が此書の最も貴い特色であり、貢獻である。著者の大い成功を心から喜ぶと同時に、我國のフレーベル研究の最も眞摯な、最も權威ある文獻を得た事を欣慶するものである。幼兒保育界の精讀はもとより、一般教育界へ之を奨めてやまない。(大阪市西區立賣堀下通三丁目大八洲出版株式會社。定價六圓五十錢)

山下俊郎氏著

「幼兒の家庭教育」

幼兒の家庭教育を論じた書は世上夥しとしない。併しこの大いなる歴史の大轉換の現實に立つてそれを讀み返してみる時、そこには多少なりと、この時局と睨み合せてみる時、或るそくはなさを感じることがあるものである。

本書は幼兒教育の權威である著者がこの現時局の社會の動き、教育界の動きの最唯中に立つて、しつかりと幼兒の家庭教育を論じられたもので、一讀して實に深思深想させられる。

世の教育者、保育者、母親の御精讀を希つて止まない。(東京都牛込區改代町二十四大理書房。參圓拾錢)

(編輯部)

日光の人體、殊に幼兒の身體に 對する生理衛生學的價值

萩 原 兼 文

そろ／＼日向に暖まり度い寒さが増して、朝夕は殊に冷たく感ぜらるゝ氣候となりました。晴れた日の午後、南の椽側に嬉々として遊ぶ子供を見、又、これからの冬に雨や雪に閉ざされて、所在なきに火鉢を圍む人々を思ひますと、日光の恩恵が我々生物に取つて如何に重大なもので有るかが御解りになると思ひます、これ等の事につき、少しく御話して見ませう。

日光とはどんなものか 先づ、光とはどんな物でせうか、光とは光源から放射せらるゝ電磁波で、媒體(空氣)を傳はつて來る振動です、而も其速さは、毎秒、約三〇萬軒と云はれて居ります。

これから炭火を燃やしますと、赤い焰が出ますが、もつと強い熱度になりますと、だん／＼白い光になります、太陽は攝氏六千度位灼熱して居る火球だと、云はれて居りますから、所謂日光光線は白色光なのです。

さて、日光をプリズムで分解して見ますと、赤、橙、黄、綠、青、藍、紫、の七色が美事に表はれて參ります。つまり日光は多くの光の集合體で有ると云ふ事が解ります。この日光の中の、我

私の眼に映する光を可視光線と申します、プリズムで七色に分れるのは、赤から紫の方へ屈折の度が違ふからです。赤の波長は約八〇〇ミリミクロンで、紫は約四〇〇ミリミクロン、一程の長さな、赤は、約一三〇〇同、紫は、二五〇〇同位振動して居ります。吾々が是等の光を見る事が出来るのは、眼の網膜の神經に是等の振動数が感ずるからです。處で、日光には此可視光線の外に、赤よりも波長の長い振動数の少い光線が有ります。其光線を赤外線と申します。吾々に見えないのは、其少い振動数を感ずる神經が人間の眼には無い爲です。この赤外線が吸収されまると熱のエネルギーとなりまますから、亦、熱線とも稱します。又紫より波長の短い振動数の多い光線もあります、之を紫外線と云て居りますが、強い化學作用が有りますから亦化學線とも申します。これも其振動数が餘りに多い爲に我々の眼は感ずる事が出来ず、見えない光線です。

さて、日光は是等多数の光線が集つて白色となつて地上に到達して居りますが、其分量はどんな割合かと申しますと、赤外線が

六〇パーセント、可視光線が三九パーセント、紫外線は僅かに、一パーセント、と云はれて居ります。つまり熱線が非常に多く、波長二二〇ミリミクロン位の長い光線まで来て居ります。紫外線は極、僅かで約三〇〇ミリミクロン位までです。これは物體を熱すると先づ赤い焰が出て、だん／＼熱度が高まれば遂には白色光となり、最後に紫外線が出て来るものですから、日光も熱線が多くて紫外線が少い理です。以上で日光とは、どんなものかと云ふ事がお解りになったと思ひますので、次は、日光を吾々が浴びると、どんな生理作用が起つて衛生上如何なる利害が有るか云ふ事を御話します。

日光の人體に及ぼす生理作用 日光光線中の赤外線、乃ち、熱線を浴びますと、身體が温められて新陳代謝が盛んになります。熱線は比較的內部まで透るもので、體内の血液循環を促します。可視光線では精神的に興奮を覺えます。森羅萬象、悉く明るく見えて、愉快を感じ、花は咲き、鳥は歌ふ、生物、皆、光の恩恵に浴して其成長を樂しむのであります。紫外線にはいろ／＼の強力なる作用が有ります。染物がだん／＼褪色するの、皮膚が赤く黒く焼けて来るの、夜具布圍等を日光に干して細菌が消毒されるの、皆この紫外線の力だとされて居ります。皮膚が赤黒く焼けて来るのは、強烈なる紫外線の化學力を緩和する爲に、皮下にメラニン色素が沈着するからです。深窓に育つ青白い子供よりも、野良に遊ぶ百姓の子の方が丈夫なのは、皮下のエルゴステリンと云ふ蛋白質が紫外線の爲に、多くビタミンDに變るからだ云はれます。ビタミンDは成長、發育に必要な榮養素で有ります。

かく紫外線も缺く可らざるものでは有りますが、其化學力が餘りにも強力なので、天の配劑宜しきを得て日光光線中には僅かに一パーセント丈、入て有るものと思ひます。誠に自然は合理的に造られて居るではありませむか。

要するに日光を浴びますと、赤外線の爲に身體や衣服が温まり、可視光線も加はつて新陳代謝が高まります。紫外線では、殺菌力も有りますが、皮膚が焼けて體内にビタミンDが増します。亦日光浴すると血液内の白血球や、赤血球が殖えて、身體の抵抗力が増強されると云はれて居ります。

日光浴の諸注意 兎に角、日光の刺戟は相當強力なるものですから、弱い人や、幼兒等は特に注意して居なければなりません。先づ日向に出る時は餘り頭を直射しない様にします。特に日射の強い夏は、日射病で倒れぬ様、帽子を冠る必要が有ります。夏と冬との日射量の比は、五と一位違ひますから夏日、炎天で、長時間の運動等は絶対に避けねばなりません。亦日光下では新陳代謝が盛んになつて汗も出ますから着物はなるべく軽く、寛かに着て居りませぬと、だん／＼暑苦しくなつて参ります。又、反射光線の多い雪のスキー場では、紫外線から眼を保護する爲に、スキー眼鏡を掛けて居るべきです。

尙病後の人が醫師の許可を得て、日光浴する時は、先づ足先位から、始めて徐々に、身體に及び日を追ふて時間を延ばす様、慎重に致し度いものです。

病中の人は、無論、醫師の許可を要しますが、特に熱發者は禁止すべきだと考へられます。

これから冬に向ふ暖かい静かな日に、南側の椽先に布團を敷いて幼児を座らせますと、暖かさと、氣持よさに喜んで遊んで居ります。此際軽い帽子を冠せ、追々着物を脱いで直射日光を浴びさせ、賊風の來ぬ様な屏風で遮つて置きますと、子供はだん／＼皮膚の抵抗を増して、冬でも裸で、日光下に平氣で居る様になります。無論弱い子供は最初、短時間に止め、順次、時間を増す様にしてやります。亦、本など見る時は日射の處で見ぬ様に氣をつけてやり、餘り時間の永くならぬ内に着物を着せて他室へ移します。又庭などで馳せ廻る様な子供は、なるべく厚着をさせぬ様に、汗が出たならば肌衣を取換へてやらねばなりません。日光浴した後は、急に冷えぬ様に氣をつけるべきです。風邪は、よく、こう云ふ不注意から起ります。

日光の入らぬ家に醫者が來ると云はれます、特に都會の子供は日光に親しませ度いものですが、それには以上述べました様な注意が肝要と思ひます。では此位で擱筆します。

(筆者は東京帝國大學助教授)

昭和二十年度保育實習科募集の件の詳細は

本誌十四頁にあり。

「萬葉飛行隊」「富嶽隊」

レイテ島をめぐる日米決戦に突如出現して一億讚仰の的となつた海軍の「神風隊」に對し引きつゞいて十一月十二日には陸軍の特別攻撃隊「萬葉飛行隊」十三日には「富嶽飛行隊」が必死必殺の體當りを以て敵艦船を轟撃したことが大本營から發表された。敵艦船沈没に若き命を賭けて還らざる基地を進發した是等の特攻隊の出陣こそ我陸軍魂の體化であり生ける神鷲の姿であつた。この「萬葉」「富嶽」の名は梅津參謀總長が命名されたもの、由、恐らく「正氣の歌」に由來する。その御紹介する。五言絶句の漢詩で相當長いののであるから紙面の都合上その前半關係のある部分のみ抄録する。

天地正大の氣。粹然として神州に鍾る。

秀でゝは富士の嶽となり。巍々として千秋に聳ゆ。注いでは大瀝の水となり。洋洋として八洲を環る。發しては萬葉の櫻となり。衆芳ともに儷ひ難し。凝つては百鍊の鐵となり。銳利鑿を斷つ可し。

幕末の頃水戸藩の勤皇學者藤田東湖が烈々たる忠誠心を謳つたこの歌は當年幾多の志士を鼓舞し尊皇の大精神を培育するに大に力になつたものである。敵艦船目指して「萬葉」の櫻と散つた「萬葉飛行隊」。その功績巍巍として千秋に聳ゆる「富嶽隊」。その忠烈は正に萬古不滅從容として悠久の大義に生きた姿は正氣の歌そのまゝを實踐したものといふべきである。(十一月十五日大本營發表を見て)

死生を貫くものは嵩高なる獻身奉公の精神なり。生死を超越し一意任務の完遂に邁進すべし。身心一切の力を盡し、從容として悠久の大義に生くることを悦びとすべし。(戰陣訓本訓その二、第七死生觀)(編輯係り)

日なた保育を語る

留岡よし子

時 十月上旬 暴風雨のある日

所 某保育所保母室

人 保母四名 實習生四名 (保母養成所)

日光利用の保育計畫

保母一、今日の保母會は、これで大體來週の打合せが済んだのですが、もう一つ皆さんに考へて頂き度い問題があるのです。

こんな寒い日は、特に、切實に、日光がこひしくなりますが、これからは寒くなる一方でせう。雨の日、曇の日もあると思ふと、日光に恵れた日には、どうして無駄なしに日光を受入れ様かといふことを、計画的に考へて置く必要があるのではないかと思ふのです。

保二、そうですね、しみん、お陽様つて有難いと思ひますね。

保三、戦争以來、日光の暖かさといふものが本當に解つた様な氣がします。

保四、冬の最中でも日向に長くあると汗

が出て來ますものね。

保一、そこなんです、計畫的に、日向保育が考へられなければならぬのは。一分でも日光を無駄にしないといつて、晴天の日に、日向に許り出して置くわけにもありませんし、そうかといつて、なるべく日向に出しませう位の氣持ですと、やはり、立てられた保育案に従つて、時間が來ればお集り、お繪描き、さあお仕事、唱歌、と兎角、樂器や道具の手近にある保育室で過す事が多くなつて、結構自由遊びの時位、お外に出ませう、といふ様な事になり易いのです。

保二、それぢやあんまり日向に出る時間が少くなりますね。

保一、保三さん保四さんは、この春からの就職ですが、去年の冬、學校で實習なされた時はいかがでしたか。

保三、別に？

保一、學校(保母學校)では日向保育について特にお話がなかつたのですか？

保四、え、お話といふ程の事もなかつたのですが、たゞ、なるべく日光に當てる様にといふことは伺ひました。

保三、それに寒いと、日光が當つてゐれば皆自然に日向に集つてしまふのです。

保一、子供達も？ 大人許りが甲羅干しをしてゐるのではないのですか？

保四、そういへば、私達、皆で遊戲室の窓の所へ並んだわね、背中が、ホカ／＼して來て上衣がぬぎたい位だつたぢやありませんか、

保一、子供達が並ぶ餘地がなかつた、といふわけでもなかつたのでせうね、その上衣がぬぎたい位の時、大人ならすぐぬいで又涼しくなつたら着るでせうが、子供は汗びつしよりのまゝで遊んでしまふ心配がありますね、大人の方で注意してぬがせなければならぬのですが脱いたり着たりに便利な上衣がぜひほしいものですね、先日、朝晩は急に涼しくなつても、日中はまだ相當、暑い日もありますから、必要に應じて、脱ぎ換への出来るものを着せて頂き

いと、おたよりに書いては置きましたけれど……

實習の方は、その日向保育といふ事について何か御話をお聞きになりましたか？

實習生一、え、〇〇先生が、△△幼稚園で去年なまつたと仰いました。

保一、どういふ風に？

實二、あのお辨當をお天氣の日は外へ持出して食べたり、お遊戯なんかもお外でさせたりしたつて……

幼児と日光浴の時間

保一、それで〇〇先生は毎日どの位の時間、日向に出して置いていゝつて仰有いました？

實三、時間？

保一、え、今日はお天氣がいゝからといつて、お集りを外でして、遊戯を外でして、お仕事を外でして、お辨當を外で……お遊びも外……といふわけにもいかないでせう。

實四、たゞなるべく外で遊したり、お話なんかも、お庭でした方がいゝつて……
保一、そうですか。實はそのなるべく日向つていふ事は誰もが考へることで常識か

らいつても、必要からいつても、寒い時に火の氣がなければ自然、日光をしたつて、ひまはりではないけれど、お陽様くつて後を追ふ様になるのですが、あの年頃の子供達に、續けて何時間位日光の直射を受けさせてよいか、また、何月頃ならどう、午前なら午後ならといふ様な事があるわけだと思ひになりますか？

保二、そうですね、無闇に日向に置いていけないわけですね。

實一、そういふ細い事はまだ何はないのです。こちらの保育所ではどうなさつてゐらつしやるのですか。

保一、そこなんです、實は昨年まで、火鉢も各部屋に入れられましたし遊戯室には大火鉢二つに相當火が起せました。それからお辨當も温められたのです、そのなるべく日向主義で、そう切實に日光を追かける程の事もなかつた様に思ふのです。

ある小兒科のお醫者様に、私の立場を話してお意見を伺つた所、「秋の強い陽だつたら午前一時間位午後一時間位、一時間以上は避けた方がいゝでせう。冬の弱い陽ならそれは制限の必要ありませんが、宜く日

向にゐて汗ばんだのをそのまゝにしてをいたり、

日向から急に寒い所に入つたりすると風邪の原因となります、日向に机を持出して白い紙を見ることがなどもそう長くなければ影響はなでいせう。

頭はそのまゝで、帽子はいらなと思ひます。熱のある子は日向に出してはいけませんから、朝一應調べる必要があります。又顔色の悪いビタミン不足の子は特に氣をつけて日光に當てゝ下さい、同じ日向といふも強弱に依つて違ひますが大體午前の方が空氣もよし戸外に出すのには適當でせう、風のある日は、素通しならガラス越しでも結構ですから風を避けて日光に當てゝ下さい。」

といふ様な事でした。

こんな事も参考にして、赤組(年少組)は下の廊下、白組(年長組)は上の廊下を使つてもいゝのですから、それくお考へを纏めて置いて下さい。

吾が園の日光浴に適當な場所

保三、あの××先生が仰有つてました、今年の冬はどうなるか心配だつて……

保四、お砂場のある所が一番暖いのか
て仰有つていらつしやいました。

保一、そう／＼よくお砂場の所で氣持よ
さそうに、子供達を眺め乍ら二三人で集
つていらつしやいましたつて……今年
はいよ／＼炭もないし、少しは燃すもの、用
意は出来る筈ですがそれはそれとして、今
年こそ眞剣に日向保育を考へなければなら
ないと思ふのです。

所が以前はその廣い畑の所が、いゝ草
原で、お眺へ向きの子供の遊び場で日當り
もよし、何かといふと、皆で出かけ、おや
かんを下げてお辨當も草原でといふ風でし
たのにもう駄目です。もと／＼保育所と
して建てられたのでないこゝ保育所のは誠
は庭の工合が不適當で困ります。

實一、どこが一番日當りがいいのです
か？

保一、戸外では、お砂場、内では、廊下、
殊に二階の廊下が一番いい様です。それで
去年も、廊下保育なんて、机を廊下へ持出
して、汽車の食堂の様にした事がありまし
事だ。お仕事も、お辨當も、廊下で出来たの
です。考へて見ると皆が出席ではせまいわ

けですから冬は相當缺席者も多かつたので
すね。今年は、幼稚園と違ひ、冬だからと
いつて、そう缺席者が多い筈はないと思ひ
ますが、定員が丁度去年の半數位ですか
ら、廊下保育には困らないでせう。たゞ朝
晩の日の當らない時が問題ですね。

保二、それは本當に重大問題ですね。

實一、そう／＼〇〇先生は、冬は保育時
間を遅らせて、九時から二時までといふ所
を、十時から三時までにしたと、仰有いま
した。

保一、あゝなるほど、それは合理的です
ね、冬は朝集るのが遅く、自然十時頃にな
つましてしふのです。去年までの幼稚園なら
二時退でも三時退でもよかつたのですが、
今も云ふ通り保育所ではその融通が利か
ないでせう、といつて朝夕の陽の無い時の事
をいつても仕方がないから、それはそれと
して、陽のある間の計畫を、來週の保姆會ま
でにそれ／＼考へて持寄る事にしませう。

庭は砂場のある方は一日中陽が當つてあ
ります。箱ブランコのある方の庭は右半分は
殆んど陽が當らないのです。午前十時頃か
らまづ築山の邊に陽がさしはじめて十二時

頃は畑の方でブランコ低鐵棒の邊まで陽が
當ります……でも、眞冬は霜がひどくて一
寸出せません遊戯室の窓でもまづ一日中陽
が當りますが最近、道路に土を盛つてから
は、雨が降ると水が溜つて、子供の遊び場
として使へなくなつてしまひます。

廊下は上下共よく陽が當ります特に二階
が早い様です。遊戯室は窓寄りの方三分の
一位まで陽が入ります。お部屋は廊下から
入る陽が半分位まで届くでせうか。

それからお散歩は遠出は出来ませんが、
女學校のお庭が、信勝寺位までなら行かれ
るでせう。では今日の御相談會はこれでお
しまひに致しませう。

(筆者は十文字高女附設戦時保育所主任)

お願ひ

○本會へ振替にて御送金の場合は、
必ず振替料金拾錢を御加算下さい。
○從來は誌代として一冊につき参
拾五錢だけ頂いて居りましたが、
昭和十九年四月分から、誌代の外
に特別行爲税參錢、送料貳錢、合
計四拾錢を申し受けて居りますか
ら御諒承下さい。

昭和十九年十一月

日本幼稚園協會

東北の日なた

今　　き　　よ

一、私の幼稚園は幼児の數に比較して廣い建物を有して居りましたが、天地自然の恩恵に浴せしむるを以て保育の要件と致して居りますので庭園も可成廣くあります。冬季の長い當地の事故春夏私は天候の許す限り室外保育を奨励して日光に浴せしめて居りましたが去る七月十三日創立以來三十五周年築き上げたる建物は僅に一時間有餘にして一物をも残さず烏有に歸してしました。原因は今尙不明でしたが、幸ひ無風でしたので他に類焼の迷惑をかけませんでした。處が今時局は再建は覺束ないのです國家は天れ以上の物を要求して居ります。銃後は戦時保育所を要望して居りますが大阪には立派な家なき幼稚園（自然保育園）ありと承つて居ますが、建物はなくとも或程度迄の保育は出來得る。

今年には種々の都合上田植（室外手足洗水道の流れを利用した小田）遅れやつと苗を

探し求めて火災の前日に田植えをしたのであつたが一と月を経て出穂し之で完全に稔りました三十年前奉齋した皇大神の御前にて神嘗の御祭りを例年はしたのであります。

天は父であり地は母であります天地萬有は活物である證據に粟粒一つ播いても母體によりてみのもと云ふ天地のおん働きを一生の基礎をなす幼児期に知らしめん爲、又勞力奉仕、増産の一指針とせんと畑には種々の物を幼児の出來得る範圍に手傳はしめ其成稔を樂しましむるのであります。

晴天の日にも室内に居る子供があれば「風でない限りお外で遊ぶのです」、ねずみはお日様に當ると死んで了ひます。其他植物にたとへ等して日蔭育ちの生育を観察せしむる等しますが冬日と雖も雪合戦もスキーム雪舟櫓スベリも炊事もします屋上の雪の上にも登り元氣に室外保育をします、市

内には他に八つの保育園や幼稚園はありますが廣い庭園を有する向き少く或は全く無い方もあります。

日々の保育時間も午後二時迄在園するものは二、三あり他は十一時半乃至一時であります、私の幼稚園は午後二時迄でありましたがつとめて日光をあびると共に眞夏も夏知らずと云ふ白紫の大木の藤棚幾十坪とありますので日光と陰とを緩和して自然の恵を受けて倦くを知らずに居りましたが此の藤棚は火災を逃れました。

されば建物を失ひし幼稚園は第二國民健康増進の爲其筋の許可を得て何處彼處の幼保育園の區別なく低學年の兒童退下後又は 曜祭日の休日此所にて日々の生活をなすと同時に將來大國民としての態度に反らざるの教養をも施し度市内には空閑地として殆んどなくこゝを小公園として利用したいと思つてゐます。

幼少の時より日光を好むやう又其恩恵を辨まへしむるやう保育することは最大切なることで弱い子無精の子は日光を避くるの傾向あり（大人もさうであるが「朝起きるの家は朝日が差込んで貧乏神の居處もなし」「朝

寢する家は朝日が取り巻いて貧乏神の住所もなし」とは秋田縣の岩川理喜之助翁の道歌と承る。世の中には日の出を見たことが無い人があり朝寢をしても夜遅く眠れば睡眠時間に違ひは無いと之れは西洋風の人。尤も程度による問題であるが弱い人も徐々に朝起きをして丈夫になる人は多い。これは東洋からの古風と思ふ、春陽がカ／＼か

日なたの畑

耕地 去年の秋、幼稚園に隣接した空地を百坪あまりいただいた。垣根なしの空地の間が数年もつゞいてゐたので、場末の空地そのまゝで、塵埃の捨てどころになり、石炭ガラ、瀬戸物のカケラ、石、瓦のカケなどといった耕作に出来る土地になることかと考へた。

それでも強い雑草はその荒れ土の間から生ひ茂つて幼児たちの背丈以上にものびてゐた。この荒地開墾の仕事は私共素人には

げらふにほひ日傘をさして歩く人をあやぶむ又幼稚園の中にも庭園に重きを置かで建物さへあれば保育出来るものと心得て居らるゝ向きもあるやうに見受る而して其建物内にも光線は餘り入らぬやうでは全く子供のいやしが出来まいかと憂ふのであります。(筆者は青森幼稚園主任)

及川ふみ

手の下しやうもないので先づ第一に園藝の大岩先生の御指導を仰ぐ事にした。

第一雑草取り、第二石、カケラ、石炭ガラなどを取りのぞく事。

この二つの最初の仕事を教つた。

十月八日大詔奉戴日に全園幼児たち、雑草取りをする事にした。一組三十分位交代で仕事を始めると幼児たちはこの頃の幼児だけに、勤勞奉仕だと喜んで雑草取りをする。強い雑草だけに根が堅くてなか／＼安

安とは取れない。頭の前だけチョンギルの澤山にあるがとにかく幼児達は喜んで働いてくれる。それに空地一面に、一日中日が當つて一日畑にゐただけで日やけする位であつた。半ば枯れた雑草取りを数日つけて焼いた。根が深い雑草は鋏で掘つて掘つてなか／＼掘り出されないで保育科の生徒も我々保姆もなか／＼の難事であつた。やうやく雑草の仕末がついて今度は石ころ、瓦カケ、瀬戸カケの始末である。

又幼児たちの勤勞奉仕が始められた。空箱、塵取り、植木鉢とてんでんに入れ物をもつて來たり或は兩手にもてるだけの石ころは石ころ掘びに又數日働いてくれた。力は弱くて一人の一回の掘ぶ量はほんとにささやかなものであるが全幼児の延人数百八十人の數日の働きは目立つて片づいた。

六坪ばかり限られた場所を深さ三尺ばかり保育科の生徒により掘り下げられた。この穴に石カケその他の雑物は皆埋められてやうやく耕地として第一段階に入つたやうになつた。次の仕事は校内の數町隔つたところの土を運搬する事であつた。十人たら

保育實習科入學募集

東京女子高等師範學校保育實習科入學募集については、十一月二十三、四日頃の官報に（専門學校入學募集に關する文部省の告示中に）文部省から告示せられる趣であります。

出願期日、昭和二十年一月十日より二十日まで

第一次選拔發表、二月九日

筆答試驗、二月二十一日

身體検査、口頭試問、二月二十二日と定められてゐますが、詳細は東京女子高等師範學校昭和二十年度入學募集便覧によつて承知せられたく、郵券を添へて同校（東京都小石川區大塚町三十五）教務課へ請求せられるれば送付を受けられる筈であります。本年度から例年と異つた試験が行はれ、筆答試験も特に準備を要せず、平素の實力によつて査定せられる方針であり、勤勞動員を考慮せられての新制だと聞いてゐます。

（編輯部）

二の作地を作ることにした。

土運び、腐葉土運びを又開始した。幼児もだん／＼に土運びも上手になつて途中でこぼすことも少くなつてきた。こゝは畑中一番日當りもよく風よけもあるのである。う豆を植ゑることにする。豆はこの計畫のもとに便宜上小さい鉢に十月二十日に種を蒔いておいたのが大分大きくなつてゐて小鉢に根がすつかりまわつてゐたので、そっくりそのまゝ畑に移した。霜よけに枯枝を一つづゝたてゝこゝに第二の作物えんどう豆が三〇株植ゑつけられたのである。十二月二十日すぎにやうやく畑の仕事を一段落として、幼児たちの勤勞奉仕も大人の農耕作業も冬期休業に入つた形になつたので、植ゑつけたキャベツえんどう豆の寒さにいたまない様にとひたすらそれを念じつゝ、越年することになつた。

（筆者は東京女高師附屬幼稚園主任保母）

植附 幼児たちの搬んだ腐葉土と大人が搬だん土とでやつとこの六坪ばかりの美しい土が出来た。これには七十本のキャベツの苗を植ゑた。一本一本に小篠を立てゝ風よけにした。

丁度これが十一月の末でキャベツの二度目の移植期のものなといひて植ゑたわけである幼児と同様に植ゑると同時に丸く球になる季節をいつかと待遠しく大岩先生に伺ふと五六月頃との御話であつた。その間無事の成育をひたすら祈つた。

次に坪きわの南のところ三尺幅、に長さ七間の場所に又石炭ガラを掘りおこして第

陣友音信 (三)

——本誌發送の日に——

倉 橋 惣 三

○この苛烈な激戦の最中に、なほこうして本誌を編輯し、全國の陣友に發送することの出来るのは、なんといふ有り難いことでせう。寧ろ驚くべきことゝ言つていい位です。頁数は少なくなりました。紙質も粗くなりました。活字も小さくしました。字詰も窮屈にしました。が、そんなことが言つてゐられませうか。此頃の紙はみんな樺太から船で送られて来るのですが、その紙を作る勞動力、機械力、それにも増して、海上の輸送力の戦下の貴さを考へると、わたくし共は一頁と雖も、あだおろそかには思へないのであります。或る時間いたことです。この船舶の大切な時、紙の輸送なんかには、一船の餘裕もないといふことで、印刷紙配給の全部が停頓されそうにまでなつたことがあるそうです。關係當事者諸氏の非常の盡力によつて、全部停頓は免れたが、船の数の甚だしい制約は免れません。戦争への直接の必須に忙しい船としては、その一船を他の用に向けるのも、容易ならぬ大きな問題なのです。端的簡明にいへば、戦力の一部を割いて輸送せられた紙といふことになるのです。これは、海を渡つて送り來られる物資に

對しては皆同じことで、砂糖の如きその代表的な一つですが、紙においても亦變りないのであります。こゝらの切迫した實情を知つては、雜誌が整理統合せられて、その種類が極めて少數になり、その各誌への紙の配給が一期毎に削減せられてゐるのも、不服なざいへたものでないのであります。

○すなはち、今日の雜誌は一冊と雖も、「自分の紙」で出来てゐるものはありません。いづれも「國の紙」を與へられて印刷してゐるのであります。しかもその「國の紙」が、どんなに行詰つてゐるもの、従つて、どんなに貴重なものでありませう。わたくし共は、それをよく考へて編輯してゐます。力が足りなくて、この心に副はない點が多いとは思ひますが、一頁でも無用の文字で埋めては、相濟まんことゝ心がけてゐます。讀者の方々に濟まんといふ前に、「國の紙」のためにです。

○無用の文字とは、ざういふことでせう。その雜誌の使命に反するもの、或は、使命に對して稀薄なるものであります。編輯者として最も自ら戒心してゐる點が、こゝにあるのは申すまでもあり

ません。しかし、一言いはせていたゞきたいことは、雑誌の文字を真に無用のものでないようにして下さる爲には、讀者の方にも受持つていたゞかなければならぬ分擔があることです。その分擔とは、いふまでもなく、よく読んでいたゞくことです。そんなにも、よく読んで下さつたか、よく活用して下さつたかと思ひ得る時ほど、編輯者としての喜びはありません。喜びといふよりは編輯者から讀者への感謝であります。

○本誌の發行部数など、ものゝ數でもありませんが、それでも、發送の日は一通り多端を極めます。多端といふのもいひ盡さない言葉ですが、たゞの多忙と違ふのです。多くの雑誌は、それが大部數の發送になればなるほど、一冊々々の行くへなどが考へられてゐるものでありません。たゞ量として、重量として送り出されるのです。それに對し、本誌の如きは、悉く陣友に配送せられ、その一部々々の送り届け先きは、一人として陣友でない方はないのであります。多端とは、その一つ／＼に心を籠める發送の感情に他なりません。

○それにしても、待つてゐて下さる陣友に、發行の日の遅れ勝ちであり、殊に不規則であることは、何とも申譯ありません。これは編輯者の責任としなければなりません、戦下のいづ／＼の事情があることもお許し願ひます。わたくし共としては、この劇忙の時に、植字し、印刷し、製本して、編輯者と讀者とを月々に間違なく結びつけて呉れる、勞務員諸君に對して感謝するの、發送日の心もちであります。これ皆「國の力」ですから。

○無用の反對は用でありますが、用すなはち實用といふことはかりが、陣友間の音信としての本誌の使命ではありますまい。みんな烈げしい緊張と勞役とを以て働いてゐられる陣友諸君に對して、まごころの慰問も、陸ながらの激勵も、本誌の用の一つでありませう。正直をいへば、わたくし共は、單なる有益よりはこの方の心に溢れてゐるのです。又、わたくし共の微力を以て、どれ

だけ有益なり得るかよりも、親しきたりとして發送し得ることを自信してゐる位であります。大げさな言葉をゆるさるれば、陣友愛といひませうか。これ皆「國の友」ですから。

○それにしても、本誌が、南洋の諸島の幼稚園への發送を中止しなければならなかつたことは、幾く月の前のことでしたらうか。わたくし共は悲痛そのものを以て、發送を中止した。その月の發送日を忘れません。そして、その後のことは、あゝ、なんといふ言葉で、それらの陣友を思ひませうか。願はくは、健在にして再び本誌に、否、本誌が、お目にかゝれることを念ずるのみであります。

○前號を、琉球に送ることは、先月の發送日の一つの悲壯でありました。無事に受けとられるかを知らないのですが、是非、確に届くやうにと、胸に溢き籠もる萬感を以て祈つてゐます。と同時に、こうした中で、必ず受け取つて下さる各地の陣友諸君は、その安泰と健在とを以て、自分の分だけでない御奉公を勵んで下さることを、心から乞はざるを得ないのであります。

○前號の發送の日は、宛も、比島海戦の大戦果の報道の日でありました。わたくし共は、前線勇士の殉忠の奮闘に感佩すると共に、銃後増産の白熱の努力に感謝すると共に、そうした中にあつて、小さき本誌も亦、その使命を以て決勝に參させていたゞきたいといふことは、謙虛に、しかも強固に、希はずにあらなかつたのであります。

○今や、一切之れ戦争一本、決勝専念、他を顧るに暇ありません。他をどこでなく、そのことを、そのこととして顧みてゐることも許されません。文化のための文化なく、教育のための教育なく、保育のための保育なく、皆、すべて、舉げて以て必勝のためであります。小さい本誌も亦、必勝のために編輯せられ、發送せられ、そして必勝のために受け取られ、よく讀まれ、よく活用せられること以外、今日の使命も存在もないのであります。